

過去の試験問題例

第1次試験における筆記試験の種目としては専門試験と外国語試験があります。試験の構成は変わり得る点にご留意ください。

専門試験

専門試験は論文問題から構成されます。与えられた問いに応じた論述を行うものです。

(問題の例／イメージ)

- 「第5の戦場」と呼ばれるサイバー空間と「第6の戦場」と称される認知領域の特徴について、陸・海・空・宇宙などの他の戦闘領域（ドメイン）との相違やドメイン間の相関性に触れつつ述べなさい。そのうえで、サイバー空間および認知領域を通じた様々なアクターによる活動が国際政治・安全保障に与える影響について、学術的見地から論じなさい。
- サイバー、宇宙、電磁波といった安全保障の新たな領域において抑止は成立するか、冷戦期に成立した抑止の概念との共通点と相違点に留意しながら論じなさい。
- 影響力工作（influence operation）の定義を述べたうえで、2016年以降の世界各国での影響力工作対策にはいかなるものがあるか、対策の有効性や課題、問題点を含めて具体的に論じなさい。
- 日本の安全保障にとって、冷戦期のソ連邦の存在と近年の中国の台頭は、どのように類似し、どのように異なるか、両者を比較して論じなさい。
- 韓国あるいは北朝鮮（両方でも可）の外交政策決定過程に見られる特徴について、比較政治学の観点から論じなさい。
- 東南アジア諸国のうち一つ以上の例を取り上げ、その国（々）が現在直面する政治・安全保障上の課題を説明し、ASEAN内や日本をはじめとする域外国との協力によってどのように対処しているのか、説明しなさい。
- 中国によるプレゼンスの増大が南アジア地域にもたらすリスクと機会を整理したうえで、それに対するインドの対応について論じなさい。
- 「組織は合理的に行動する」、「組織は合理的な意思決定を行う」というとき、いかなる意味において「合理的」であるのか、自身の学ぶ分野における組織の合理性に関する議論を引用しつつ、説明せよ。また、組織の合理性はいかなる要因によって制約を受けるのか説明せよ。
- （前の問いとの関連で）国家安全保障に関する政府機関の政策または意思決定の実

例を一つ取り上げ、前の問いに対する答案において説明した合理性に照らし、当該政策・意思決定が合理的であったといえるか否かを論ぜよ。その際、前の設問において自身が言及した合理性制約要因は政策・意思決定プロセスにおいてどのように作用していたのか／いなかったのかを説明せよ。

外国語試験

外国語試験の構成は募集区分によって異なることがあります。ここでは英語試験の例をご紹介します。英語試験では、英文の問題文（題材文）を読み、与えられた問いに応じ、英語で題材文の議論を整理したり自身の考えを論じたりする記述式の問題です。

（問題の例／イメージ）

Joseph Lepgold, “Is Anyone Listening? International Relations Theory and the Problem of Policy Relevance,” *Political Science Quarterly*, vol. 113, no. 1 (1998)（抜粋）を読み、著者の主張に基づく、自身の研究がどのように政策に貢献できるかを英語で論じるもの。

Gary King, Robert O. Keohane, and Sidney Verba, *Designing Social Inquiry: Scientific Inference in Qualitative Research*, Princeton University Press, 1994（抜粋）を読み、社会科学と「複雑性」の関係について、関心のある研究分野に結びつけつつ、英語で自身の考えを議論するもの。

Elbridge Colby, “Opinion: Biden’s Global, Muscular Liberalism is an Indefensible Foreign Policy in 2021,” *Washington Post*, March 21, 2021（抜粋）を読み、著者が推奨する外交政策とはいかなるものか、そしてなぜ著者はそのような政策を推奨するのか、英語で説明するもの。

Eliot A. Cohen, “Supreme Command in the 21st Century,” *Joint Forces Quarterly*, Issue 31, Summer 2002（抜粋）を読み、著者によれば戦時の文民指導者は軍の指揮官との関係をどのように扱うべきであるのか、英語で説明するもの。